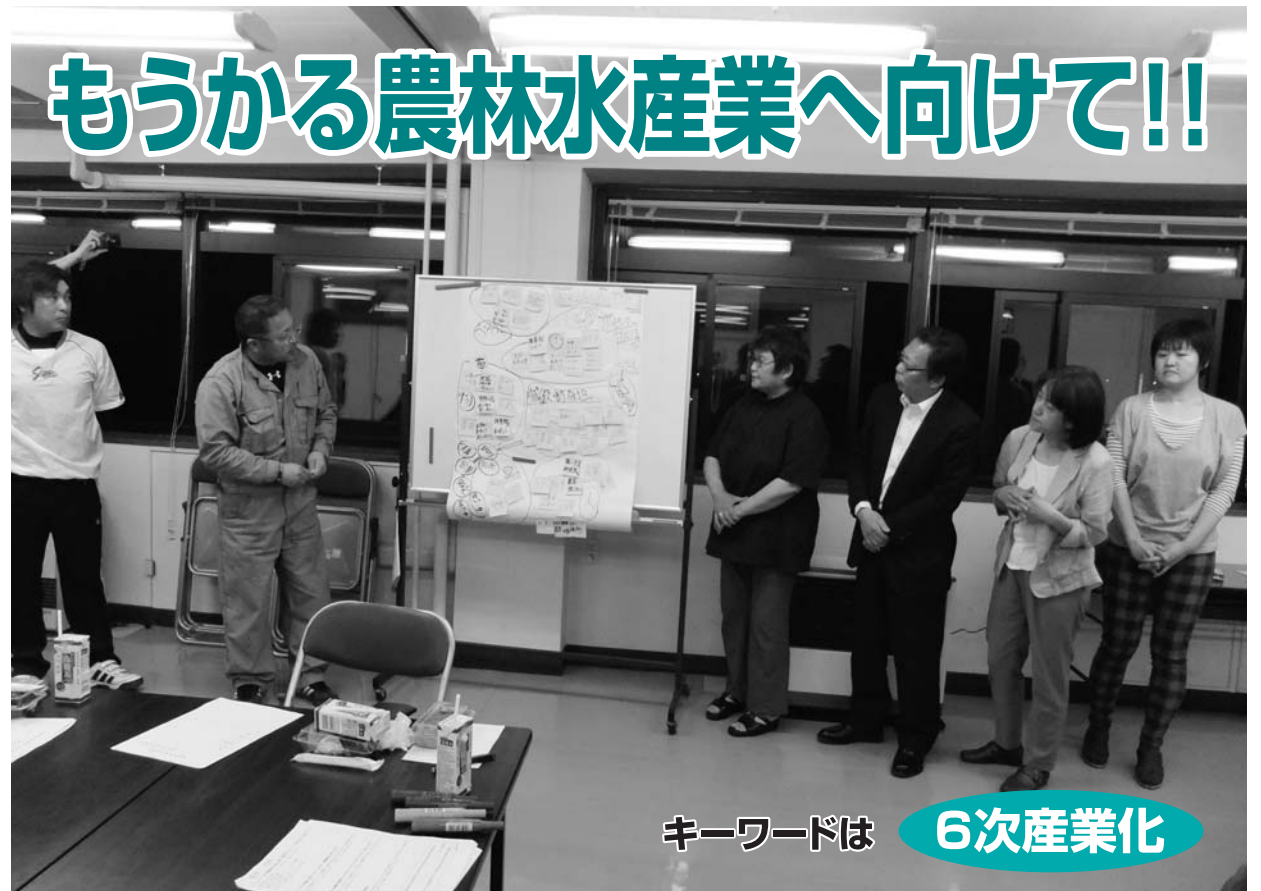


もうかる農林水産業へ向けて!!



キーワードは **6次産業化**

町の基幹産業である農業は、米価の低迷、就農者の減少、担い手の高齢化や後継者不足など非常に厳しい状況にあります。さらに農林水産物の輸入自由化・産地間競争の激化や消費者ニーズの多様化などにより、大きな変革の時期に直面しています。

こうした状況に対応し、町の産業振興を図るために、町の特長ある様々な農林水産物等を活用した新たな付加価値を生み出す農林水産業の6次産業化に積極的に取り組み、『もうかる農林水産業の実現』を図っていきます。

課題は？

町が6次産業化に取り組むにあたり、農業などを営んでいる方が抱えている課題を把握するため、5月22日(水)に意見交換会を行いました。意見交換会には、真室川町農業協同組合、もがみ北部商工会真室川支部、食品製造業者、産直などから約30名が参加し、5グループに分かれて農林業における課題や解決に向けたアイデアを出していただきました。

主な課題

- 担い手・後継者不足
- 特産品が少ない
- 産直が少ない
- セールス・販売力不足
- 生産基盤の整備不足
- 農産物の地元消費が少ない
- 地物を食べることができない
- レストラン等が少ない

アイデア

- 農作業体験ツアーを実施して、都市部の消費者と交流を行う
- 町民に町産品の良さを知

ってもらい、お中元やお歳暮の品物に積極的に活用してもらおう

- 梅の加工場などの働く場を設け、若者を雇用する
- 町のアンテナショップをつくる
- 当地アイドル(真室川ガール?)を結成する

短時間にも関わらず、どのグループもまとめ上がり、町の農林水産業の将来に対する真剣な思いが伝わってきました。



真剣な眼差しの参加者

推進本部設立

農業者等の意見交換会で出された課題等を受けて、5月28日(火)、真室川町6次産業

そもそも、6次産業化とは？

農山漁村に存在する様々な地域資源を活用し、農林漁業者が生産を行うだけでなく、加工・流通販売まで行ったり(例：作った農産物の直売)、農林漁業者(1次産業)が2次産業(製造業)や3次産業(小売業など)と連携して新しい産業を作ったりして(例：町の特産品を加工しての新商品の開発)、所得を増大させ、『もうかる農林水産業を実現』しようとするものです。

- 1次産業×2次産業×3次産業＝6次産業！

何をやるの？

化推進本部」を設立しました。委員からは、農林水産物や農林水産加工品の販売ルート確保が重要であり、作り手と売り手の連携が必要との意見や、女性の視点を活かすべきとの意見などが挙げられました。

本部は、町と農協、商工会、山形県、生産者組織、加工販売業者、金融機関などで構成多様な主体の連携のもとで、町の6次産業化を積極的かつ総合的に推進していきます。

今年度は、本部の下に専門部会を設けて、『農林水産業がもうかる』ための議論を重ね、町の6次産業化に係る具体的な戦略策定を目指します。また、農林漁業者等をはじめとする町民や事業者の方に対して、6次産業化をより知っていただくために、各種PR活動や研修会開催の支援なども行っていきます。

主な推進方向

- ① 特色ある農林産物を活用した新たな農林産加工品の開発



真室川6次産業化推進本部設立会議

真室川町農業後継者育成支援事業

平成25年度から、町農業の将来を担う農業後継者を育成するための制度をつくりました。新たな取り組みを行なう場合に、対象となる経費の1/2(上限：個人10万円、団体20万円)を町が支援するものです。新しいアイデアを募集しています。詳しくは産業課農林担当にお問合せください。

対象者

認定農業者、新規就農者、経営改善に意欲のある農業者、団体・グループ等

対象となる経費

研修参加費、交通費、講師謝礼、会場借上げ費等

取組内容

新規作物の導入検討
農業の6次産業化を図る取り組み
県外・県内での先進事例研修
公的機関が実施する農業関連研修への参加
講師招聘による講演会の開催 等



お問い合わせ先…真室川町産業課 農林担当 ☎62-2111(262・263・268)